

令和3年度 児童・生徒のスマートフォン等の所持状況及びインターネットの利用に関する調査結果について

1 調査目的

- (1)児童・生徒のスマートフォン等の所持の状況やそれらを使ってのインターネット等の利用状況を把握するとともに、それらを介した生活指導上の問題の未然防止及び早期発見・早期解決に向けた方策を講じるための一助とする。
- (2)令和3年度に貸与された一人1台端末(iPad)の利用状況を把握し、学校や家庭が児童・生徒に一人1台端末を安心・安全に利用させるための一助とする。

2 調査対象

- (1)小学校：中野区立小学校21校 第4学年・第5学年・第6学年
- (2)中学校：中野区立中学校9校 第1学年・第2学年・第3学年

3 調査方法

一人1台端末を活用したGoogleフォームによる(無記名式)

4 実施時期

令和4年3月

5 平均回収率

- (1)小学校：86.7%
- (2)中学校：79.4%

6 調査問題

今年度は調査目的を踏まえ、新規の質問を追加した。

- (1)問2、問2-2 家庭で使うことができる自分のものではない通信機器について
- (2)問13～問16 令和3年度に貸与された一人1台端末(iPad)の利用状況について

7 結果の概要

- (1)自分専用の通信系機器の所持率は、全小学校で80%、全中学校で95%で、特に小学校6年生を境に所持率が増加していく傾向にある。
- (2)通信系機器の使用時間の状況は、過去5年間で比較すると、小学校、中学校ともに通信機器の使用時間は、5年間で増加傾向にあると言える。
「30分未満」、「30分以上1時間」の使用時間の割合が減少し、「3時間以上4時間未満」、「4時間以上5時間未満」、「5時間以上」の使用時間の割合が増加した。特に、コロナ禍にあった令和2、3年度に増加率が高い。
- (3)通信機器の利用については、全小学校、全中学校とも一番が「動画を見る」でそれぞれ67%、90%であった。

- (4)知らない人との会話やメールなどメッセージのやり取りは、学年が上がるに従い増加しているが、昨年度と比較すると、「はい」の回答は、全小学校では14%で8ポイントの減少、全中学校では40%で6ポイント減少しており、小中学校ともに減少傾向にある。
- (5)SNS学校ルールを「知っている」と回答した児童・生徒の割合は、令和2年度と比較すると、全小学校は79%（令和2年度：80%）、全中学校では73%（令和2年度：69%）であり、小学校では1ポイント減少し、中学校では4ポイント増加した。また、「知っている」と答えた児童・生徒の中で、肯定的な回答「守っている」と回答したのは、全小学校で95%、全中学校で85%であった。
- (6)家庭の中でSNS等に関するルールがあると回答した児童・生徒の割合は、全小学校は、79%（令和2年度：73%）全中学校は73%（令和2年度：64%）であり、小学校で6ポイント、中学校で9ポイント増加した。
- (7)一人1台端末（iPad）の使用時間については、全小学校、全中学校とも「30分未満」が一番多く、次いで「30分以上1時間未満」、「1時間以上2時間未満」であった。また、その利用については、全小学校では、「学校の宿題」と「持ち物の確認」が62%で一番高く、次いで「情報検索」が47%だった。全中学校では、「学校の宿題」が67%と一番高く、次いで「お便りを見る」が47%、「情報検索」が46%であった。

8 今後の取組

- (1)ほとんどの児童・生徒がインターネット通信が容易にできる環境にいることを前提として、教育活動全体を通じて、人間関係を築く力や社会性、規範意識を高める指導を行うとともに、様々な機会を捉え、「情報モラル教育」を推進する。
- (2)通信系機器を長時間使用する児童・生徒が増加している。学校から、学習面・健康面両方への影響について繰り返し指導するとともに、家庭において使用時間のルールを決めるよう啓発することを通して、児童・生徒自身が自らの生活を振り返り、自制する力を育成していく。
- (3)各校における保護者会やセーフティ教室等の機会や学校だより等により、情報モラル教育の必要性及び使用の長時間化への警鐘、架空請求やワンクリック請求等のデジタルコンテンツのトラブルへの対処方法等について保護者へ周知を図り、親と子で話し合いながら決めていく「SNS家庭ルール」づくりに向けての啓発を推進する。
- (4)トラブルに遭った際の適切な対処方法について学ぶ「SOSの出し方に関する教育」を今後も継続していくとともに、中学校については、SNSによる相談窓口「STANDBY」を周知し、相談しにくいことでも誰かに相談できるという環境を整える。また、教員や周りの大人には、研修等を通して児童・生徒からSOSを受けたときの対処方法を学び、適切な対応ができるようにしていく。

**令和3年度 児童・生徒のスマートフォン等の所持状況及び
インターネットの利用に関する調査結果について**

令和4年3月実施

中野区教育委員会

I 調査の概要

1 調査目的

- (1) 児童・生徒のスマートフォン等の所持の状況やそれらを使ってのインターネット等の利用状況を把握するとともに、それらを介した生活指導上の問題の未然防止及び早期発見・早期解決に向けた方策を講じるための一助とする。
- (2) 令和3年度に貸与された一人1台端末(iPad)の利用状況を把握し、学校や家庭が児童・生徒に一人1台端末を安心・安全に利用させるための一助とする。

2 調査対象

- (1) 小学校：中野区立小学校21校 第4学年・第5学年・第6学年
 - (2) 中学校：中野区立中学校9校 第1学年・第2学年・第3学年
- ※ ただし、特別支援学級の児童・生徒については、児童・生徒の個々の状況を勘案し、校長が実施の必要性の有無を判断する。実施した場合は、該当学年の集計に含める。

3 調査方法

一人1台端末を活用した Google フォームによる（無記名式）

4 調査の実施時期等

- (1) 実施時期 令和4年3月
- (2) 実施時の対象者数・回答者数・回答率

	小学校	第4学年	第5学年	第6学年	中学校	第1学年	第2学年	第3学年
対象者 (人)	4987	1683	1617	1687	3331	1139	1103	1089
回答者 (人)	4320	1470	1436	1414	2646	960	889	797
回答率 (%)	86.7	87.3	88.9	83.8	79.4	84.2	80.6	73.1

5 調査問題

今年度は調査目的を踏まえ、新規の質問を追加した。

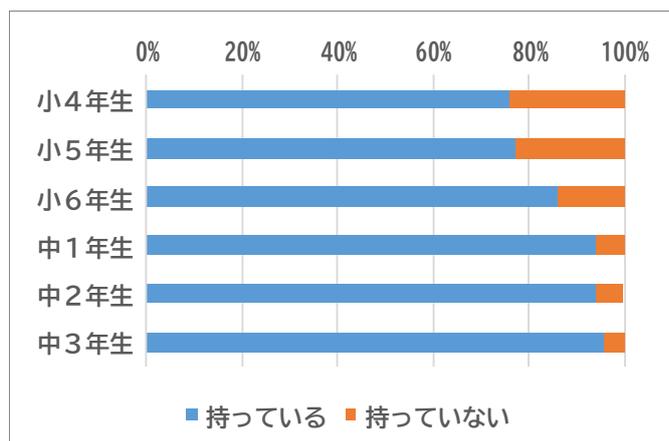
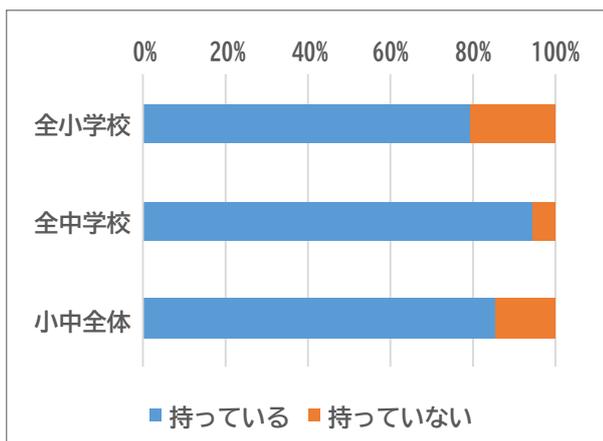
- (1) 問2、問2-2 家庭で使うことができる自分のものではない通信機器について
- (2) 問13～問16 令和3年度に貸与された一人1台端末(iPad)の利用状況について

II 調査結果

問1～問12：家庭におけるスマートフォン等の通信機器の所持状況や利用状況について

問1 学校から貸し出されているタブレット(iPad)以外に、自分のスマートフォン、タブレット、携帯電話を持っていますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
持っている	80%	95%	85%	持っている	76%	77%	86%	94%	94%	96%
持っていない	20%	5%	15%	持っていない	24%	23%	14%	6%	6%	4%



【分析】

昨年度からは、持っている機器の種類を「通信機能付携帯ゲーム」ではなく「タブレット」の所持についてに変更した。

自分専用の通信系機器の所持率は、学年で比較すると、小学校4、5年生のおよそ75%から6年生で所持率が86%に増加し、さらに中学校1～3年生では、およそ95%の所持に増加している。

昨年度と比較して、全小学校では7ポイント減少したが、「通信機能付携帯ゲーム」ではなく、問2「家庭で使うことができる自分のものではない通信機器」が「ある」と回答した児童の実態を踏まえると、ほとんどの児童・生徒がインターネット通信が容易にできる環境にいると考えられる。

問1-2 「持っている」と回答した人に聞きます。持っている機器の種類は何ですか。(複数回答可)

	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
スマートフォン	65%	95%	78%	スマートフォン	51%	59%	84%	94%	92%	98%
タブレット	48%	38%	44%	タブレット	51%	51%	43%	41%	40%	34%
携帯電話	33%	8%	22%	携帯電話	45%	38%	16%	10%	8%	7%

【分析】

通信機器の割合で見ると、「スマートフォン」の所持率が、全中学校で95%。また、小学校では「スマートフォン」の所持率が小学校4年生の51%から学年を追って増加し、小学校6年生で84%となっている。一方で、「携帯電話」は小学校4年生の45%から学年を追って減少していき、中学校3年生では7%である。

最初は「携帯電話」を持たせていた家庭が、小学校6年生を境にして「スマートフォン」を持たせるようになっていき、中学3年生では自分専用の通信機器は、ほぼ「スマートフォン」になっている状況である。また、「タブレット」については、全小学校で48%、全中学校で38%の所持率となっており、「スマートフォン」との併用や「携帯電話」との併用も含め、一定程度の所持率がある。

問2 問1で「持っていない」と答えた人に聞きます。

学校から貸し出されているタブレット(iPad)以外に、家庭で使うことができる自分のものではないスマートフォン、タブレット、携帯電話はありますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
ある	66%	57%	65%	ある	63%	69%	67%	63%	62%	39%
ない	34%	43%	35%	ない	37%	31%	33%	38%	38%	61%

【分析】

今年度新規の質問である。

自分専用の通信機器を持っていなくても、家族との共用の「スマートフォン」や「タブレット」、「携帯電話」が家庭にあるかどうかを調査するために新設した。

結果は、小学校4年生から中学校2年生まではおおよそ6割、中学校3年生でおよそ4割の家庭が所有していた。

問1と問1-2と合わせて考えると、自分専用の通信機器を持っていなくても、多くの児童・生徒は家庭で通信機器を利用できる状況にあると捉えることができる。

問2-2 家庭で使うことができる自分のものではない機器の種類は何ですか。(複数回答可)

	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
スマートフォン	59%	66%	60%	スマートフォン	60%	55%	65%	66%	58%	85%
タブレット	61%	51%	59%	タブレット	62%	61%	57%	46%	52%	46%
携帯電話	22%	23%	22%	携帯電話	19%	25%	24%	29%	16%	23%

【分析】

問2同様、今年度新規の質問である。

小・中学校全体を通して、「携帯電話」の割合はおおよそ20%で、「スマートフォン」または「タブレット」の割合がおおよそ60%という回答であった。

家庭の状況にもよるが、使わなくなった保護者や兄弟の「スマートフォン」や「携帯電話」を児童・生徒が利用したり、「タブレット」を複数台所有していて、自分専用ではなくても児童・生徒が比較的自由に利用できたりする状況があると考えられる。

問3 スマートフォン、タブレット、携帯電話は、1日にどのくらい使っていますか。

令和3年度	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
30分未満	23%	5%	16%	30分未満	33%	24%	13%	6%	5%	3%
30分以上1時間未満	18%	8%	14%	30分以上1時間未満	22%	19%	14%	9%	9%	5%
1時間以上2時間未満	23%	20%	22%	1時間以上2時間未満	20%	24%	24%	21%	23%	18%
2時間以上3時間未満	15%	27%	20%	2時間以上3時間未満	11%	15%	19%	26%	25%	29%
3時間以上4時間未満	9%	16%	12%	3時間以上4時間未満	6%	7%	14%	15%	15%	18%
4時間以上5時間未満	4%	9%	6%	4時間以上5時間未満	3%	4%	6%	9%	8%	9%
5時間以上	7%	15%	10%	5時間以上	4%	7%	10%	13%	15%	18%

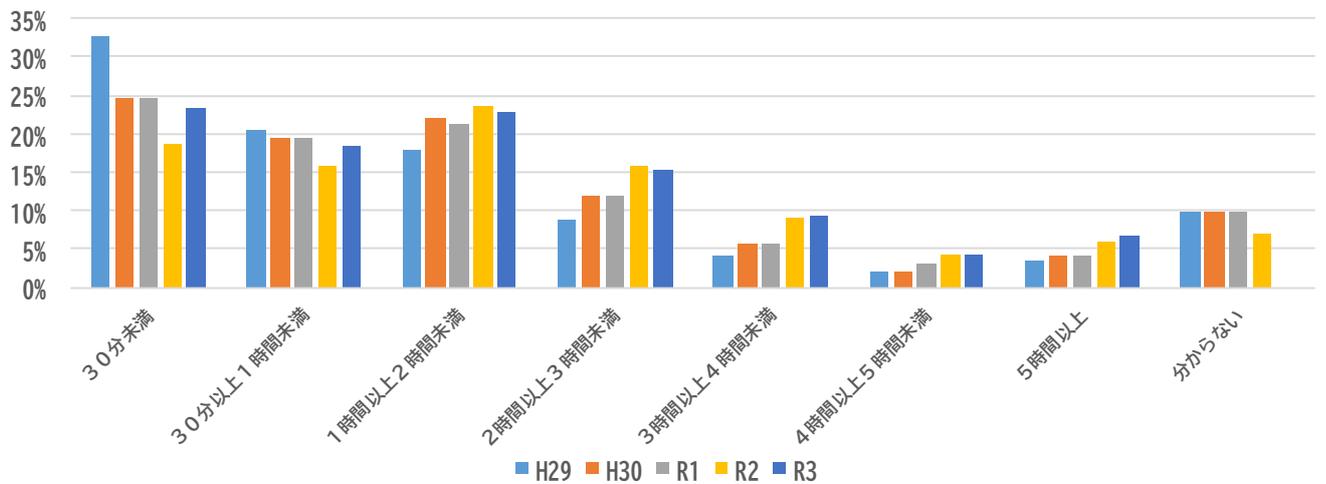
令和2年度	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
30分未満	19%	6%	13%	30分未満	24%	19%	13%	5%	5%	8%
30分以上1時間未満	16%	10%	13%	30分以上1時間未満	17%	17%	13%	10%	7%	13%
1時間以上2時間未満	24%	23%	23%	1時間以上2時間未満	23%	25%	23%	22%	21%	27%
2時間以上3時間未満	16%	22%	18%	2時間以上3時間未満	14%	14%	18%	21%	25%	21%
3時間以上4時間未満	9%	14%	11%	3時間以上4時間未満	8%	8%	11%	15%	15%	11%
4時間以上5時間未満	4%	7%	6%	4時間以上5時間未満	3%	4%	6%	7%	9%	6%
5時間以上	6%	10%	7%	5時間以上	5%	4%	8%	11%	10%	9%
分からない	7%	8%	8%	分からない	6%	7%	7%	10%	8%	7%

令和元年度	全小学校	全中学校
30分未満	25%	7%
30分以上1時間未満	20%	11%
1時間以上2時間未満	21%	27%
2時間以上3時間未満	12%	26%
3時間以上4時間未満	6%	11%
4時間以上5時間未満	3%	5%
5時間以上	4%	6%
分からない	10%	7%

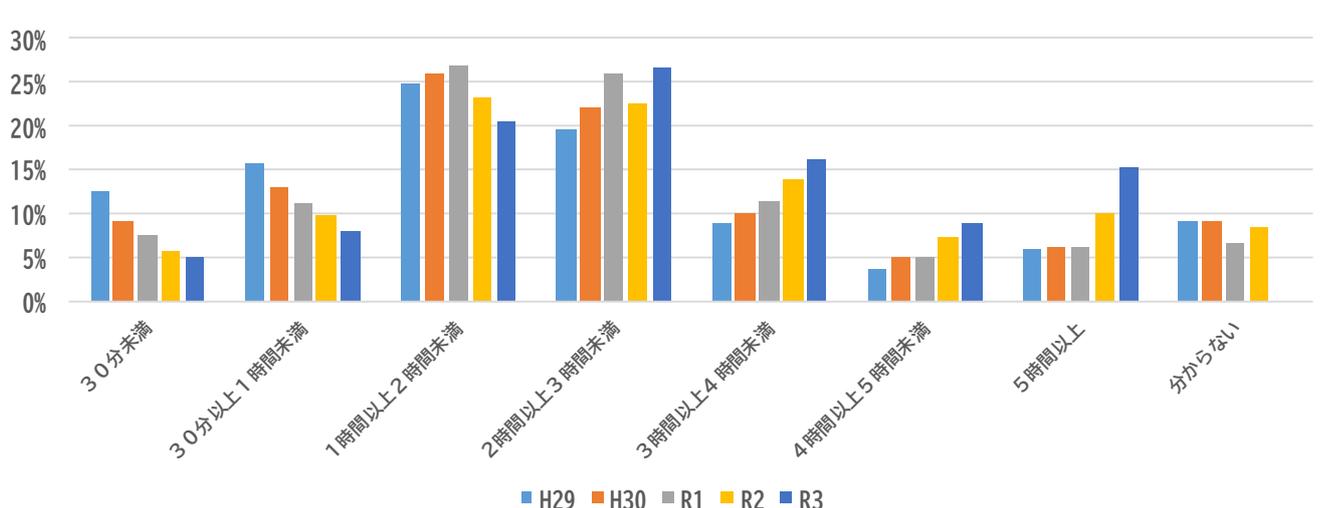
平成30年度	全小学校	全中学校
30分未満	25%	9%
30分以上1時間未満	20%	13%
1時間以上2時間未満	22%	26%
2時間以上3時間未満	12%	22%
3時間以上4時間未満	6%	10%
4時間以上5時間未満	2%	5%
5時間以上	4%	6%
分からない	10%	9%

平成29年度	全小学校	全中学校
30分未満	33%	12%
30分以上1時間未満	21%	16%
1時間以上2時間未満	18%	25%
2時間以上3時間未満	9%	20%
3時間以上4時間未満	4%	9%
4時間以上5時間未満	2%	3%
5時間以上	4%	6%
分からない	10%	9%

全小学校 5年間の比較



全中学校 5年間の比較



【分析】

通信系機器の使用時間の状況については、平成29年度からの5年間の比較を行った。

小学校、中学校ともに通信機器の使用時間は、5年間で増加傾向にあると言える。

「30分未満」、「30分以上1時間」の使用時間の割合が減少し、「3時間以上4時間未満」、「4時間以上5時間未満」、「5時間以上」の使用時間の割合が増加した。特に、コロナ禍にあった令和2、3年度に増加率が高い。

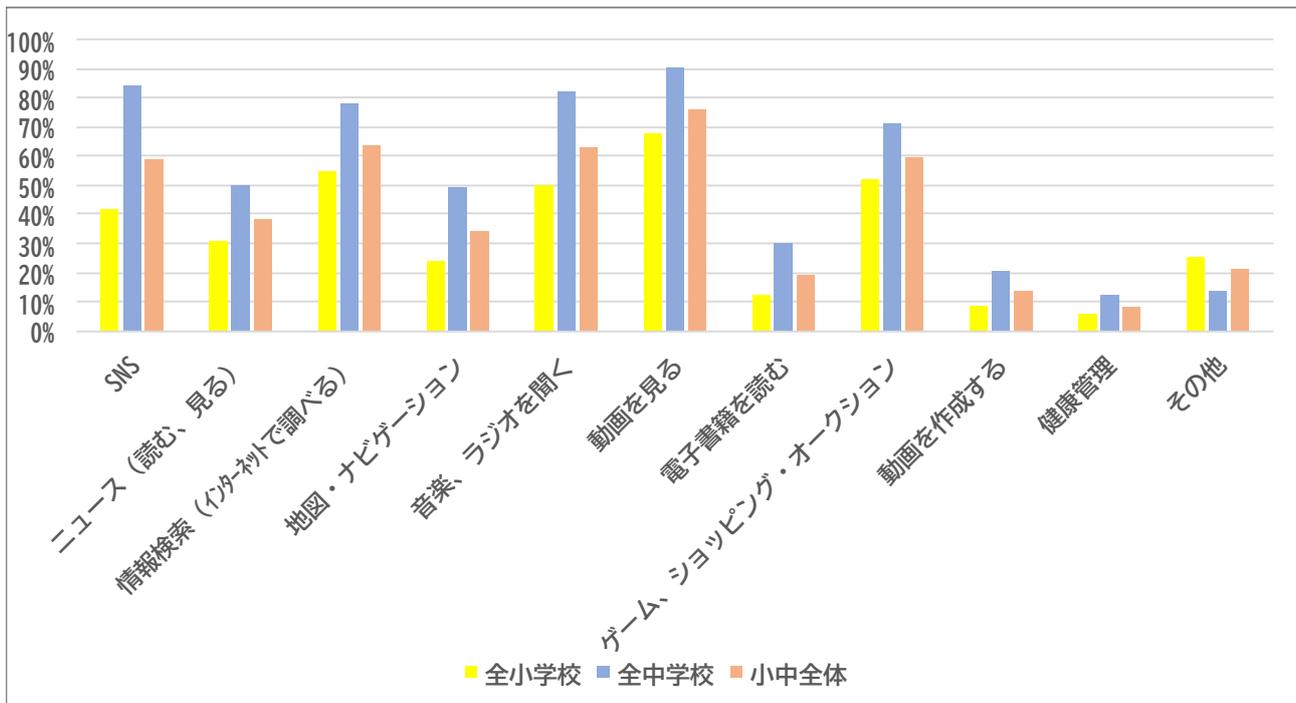
要因として、コロナ禍で外出する機会が減少した結果、通信機器を使用する時間は増えていることが考えられるが、これまでの家庭でのテレビの視聴や家庭用ゲーム機で遊ぶ時間が通信機器を使用する時間に置き換わっているとも考えられる。

また、「5時間以上」の長時間使用している児童・生徒の割合は、中学校で高い傾向にあり、令和3年度は15%に達している。これらの児童・生徒は、放課後のほとんどの時間で通信系機器を使用していることになる。

通信系機器を長時間使用する弊害については、自分自身の学校の課題や自主的な学習に取り組む時間が確保できなくなったり、睡眠時間の減少につながったりすることが考えられる。学校は、学習面・健康面両方への影響について繰り返し指導するとともに、家庭において使用時間のルールを決めるよう啓発する等、児童・生徒自身が自らの生活を振り返り、自制する力を育成することが必要である。

問4 スマートフォン、タブレット、携帯電話はどのようなことに使っていますか。(複数回答可)

	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
SNS(LINE、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックなど)	42%	84%	59%	SNS(LINE、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックなど)	23%	39%	64%	80%	84%	90%
ニュース(読む、見る)	31%	50%	38%	ニュース(読む、見る)	22%	31%	39%	43%	51%	56%
情報検索(インターネットで調べる)	55%	78%	64%	情報検索(インターネットで調べる)	41%	55%	68%	75%	79%	80%
地図・ナビゲーション	24%	49%	34%	地図・ナビゲーション	16%	23%	33%	41%	49%	60%
音楽、ラジオを聞く	50%	82%	63%	音楽、ラジオを聞く	41%	48%	61%	78%	83%	86%
動画を見る	67%	90%	76%	動画を見る	59%	67%	77%	87%	90%	91%
電子書籍を読む	12%	30%	19%	電子書籍を読む	7%	11%	16%	27%	32%	34%
ゲーム、ショッピング・オークション	52%	71%	59%	ゲーム、ショッピング・オークション	45%	51%	59%	71%	69%	73%
動画を作成する	9%	20%	13%	動画を作成する	6%	10%	9%	22%	17%	21%
健康管理	6%	12%	8%	健康管理	4%	5%	8%	10%	13%	14%
その他	25%	14%	21%	その他	32%	28%	17%	14%	15%	12%



【分析】

通信機器の利用については、全小学校、全中学校とも一番が「動画を見る」でそれぞれ67%、90%であった。次いで全小学校では「情報検索」が55%、「ゲーム、ショッピング・オークション」が52%の順に高く、全中学校では、「SNS」が84%、「音楽、ラジオを聞く」が82%の順に高かった。昨年度は全小学校で「ゲーム」、全中学校で「SNS (昨年度の選択肢では「コミュニケーション」)」が一番だったので、やや傾向に変化が見られた。

全小学校、全中学校ともに「動画を見る」の割合が昨年度と比較して大幅に増加しており、その要因として、コロナ禍で外出する機会が減ったことに加え、YouTubeを始めとした動画投稿サイトやサブスクリプションでの動画配信サイトが一般的になってきたことが、小・中学生の通信機器の利用にも現われていると考えられる。

一方で、小学校4、5年生で「SNS」利用の割合がそれぞれ30、20ポイント減少している。要因として、児童に通信機器は利用させているものの、「SNS」についてはトラブルに巻き込まれやすくなるため、保護者が利用を控えさせていると考えられる。

通信機器の利用については、「SNS」に対する注意喚起が進んでいる部分があるものの、いまだに「いじめ」や「トラブル」に巻き込まれたり、動画に夢中になり手放すことができず依存傾向となっており、学習や健康に悪影響が出たりするなど、様々な問題の原因にもなり得る。このような問題から児童・生徒を守るために、教員は児童・生徒の使用状況を把握し、家庭と連携して発達の段階に応じた情報通信端末の適切な使い方を指導・啓発することが大切である。

問5 スマートフォン、タブレット、携帯電話に、フィルタリングやパレンタルロックはかけられていますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
はい	48%	57%	52%	はい	40%	46%	59%	57%	58%	56%
いいえ	16%	17%	16%	いいえ	18%	15%	14%	14%	15%	23%
わからない	36%	25%	32%	わからない	43%	38%	27%	28%	26%	21%

【分析】

フィルタリングやパレンタルロックをかけていると答えた割合は、全小中学校では52%と、昨年度と比較すると1ポイントの減少ではあるものの、学年別に見ていくと、かけられていると答えた児童・生徒は全学年で令和元年度とほぼ同程度であった。このことは、学校が「SNS家庭ルール」の作成を推奨してきた成果であると考えられる。

一方、かけられていない・分からないと答えた児童・生徒の割合も約半数である。東京都の条例では、保護者は、青少年のインターネットの利用を的確に管理するように努めなければならないと定められている。今後も保護者に対して、フィルタリングやパレンタルロックの重要性や制限のかけ方等を周知していくことが大切である。

※ パレンタルロック…青少年が見ることが不適切であると思われる、画像や映像などに対して、親が視聴・利用制限をかけること（ペアレンタルロックとも言う）

問6 これまでに、スマートフォン、タブレット、携帯電話を使って、知らない人と会話やメールなどメッセージのやり取りをしたことがありますか。(ツイッター、フェイスブック、掲示板、LINE など)

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
はい	14%	40%	24%	はい	8%	13%	20%	36%	37%	49%
いいえ	86%	60%	76%	いいえ	92%	87%	80%	64%	63%	51%

【分析】

知らない人との会話やメールなどメッセージのやり取りは、学年が上がるに従い増加しているが、昨年度と比較すると、「はい」の回答は、全小学校では14%で8ポイントの減少、全中学校では40%で6ポイント減少しており、小中学校ともに減少傾向にある。

学校がセーフティ教室などを通じて児童・生徒の危機回避能力を高めていることや問4の通信系機器の使用用途で小学生4、5年生の「SNS」の利用率が減少していることも含め、学校からの家庭への啓発を行っていることの効果が現われていると考えられる。

問7 スマートフォン、タブレット、携帯電話で、自分のプロフィールやブログなどを作成したり公開したりしていますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
はい	12%	42%	24%	はい	6%	13%	18%	38%	38%	52%
いいえ	88%	58%	76%	いいえ	94%	87%	82%	62%	62%	48%

【分析】

プロフィールやブログを作成し公開している児童・生徒は、全小学校では12%、全中学校では42%となっており、中学校に進学すると大きく増加している。昨年度と比べると全小学校では6ポイント減少し、全中学校では2ポイント増加した。

小学校では、セーフティ教室などを通じて児童・生徒の危機回避能力を高めている成果が現われている一方で、中学校は増加傾向にあるため、特に中学校では個人情報の流出などの大きなトラブルに繋がる可能性があることを繰り返し指導し、児童・生徒の危険予測・回避能力を高めていく必要がある。

問8 スマートフォン、タブレット、携帯電話で、他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしたことはありますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
はい	1%	3%	2%	はい	1%	1%	2%	3%	3%	3%
いいえ	99%	97%	98%	いいえ	99%	99%	98%	97%	97%	97%

【分析】

他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしたことがある児童・生徒の割合は小中全体で2%であり、昨年と比べると1ポイントの減少である。

引き続き相手の顔が見えず、不特定多数の人が利用しているインターネットという環境の中で、悪口を書き込むことは、いじめをはじめとした大きなトラブルに発展していく可能性があることを理解させるとともに、書き込んだり送ったりする前に、必ず相手の気持ちを考えて読み直すなどの指導を徹底する必要がある。

問9 スマートフォン、タブレット、携帯電話で、他人から悪口を書き込まれたり、相手から送られたりしたことはありますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
はい	3%	7%	5%	はい	2%	3%	4%	6%	6%	9%
いいえ	97%	93%	95%	いいえ	98%	97%	96%	94%	94%	91%

【分析】（全員回答）

他人から悪口を書き込まれたり、相手から送られたりしたことがある児童・生徒の割合は、全小学校は3%（令和2年度：6%）、全中学校は7%（令和2年度：8%）でいずれも昨年度と比べて1ポイント減少した。

ただし、問8で「はい」と答えた割合と比較すると、問9であると答えた割合の方が高くなっていることから、本人が意識せず送信した内容が、知らないところで複数の相手を傷付けている可能性も考えられる。

コミュニケーションの原則として、直接会って伝えることの大切さを指導するとともに、メールやSNSへの書き込みは、削除しなければずっと残り続け、読んだ人を傷つける可能性があることを押さえ、人権教育や道徳教育をはじめとして、情報モラル教育の中でも指導を徹底していくことが求められる。

問10 スマートフォン、タブレット、携帯電話で、知らないところで自分の画像やプロフィールなどを公開されたことはありますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
はい	1%	5%	3%	はい	1%	1%	2%	4%	3%	9%
いいえ	99%	95%	97%	いいえ	99%	99%	98%	96%	97%	91%

【分析】

自分の知らないところで自分の画像やプロフィールなどを公開されたことのある児童・生徒の割合は、全小学校で1%、全中学校で5%となり、昨年度と同程度の結果となった。

SNSを通じてインターネット上に画像などを公開してしまうと、世界中に広がってしまい、取り返しがつかなくなることを十分理解させることや、コミュニケーションのとり方について、その危険性や有用性を児童・生徒に強く意識させることが必要である。また、教員もSNS上のトラブルについて相談された際に、どのように対処するかなど、昨今の状況に合わせて理解しておく必要がある。

問 11 あなたの学校に「SNS学校ルール」があることを知っていますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
知っている	79%	73%	76%	知っている	77%	78%	81%	74%	72%	72%
知らない	21%	27%	24%	知らない	23%	22%	19%	26%	28%	28%

【分析】

「知っている」と回答した児童・生徒の割合は、令和2年度と比較すると、全小学校は79%（令和2年度：80%）、全中学校では73%（令和2年度：69%）であり、小学校では1ポイント減少し、中学校では4ポイント増加した。

「SNS学校ルール」については、児童・生徒が中心となって自発的な形で校内に普及させていくことを趣旨としているが、全小学校でおよそ2割、全中学校でおよそ3割の児童・生徒が知らないと回答しており、取組が十分ではない実態がある。コロナ禍でこそ「SNS学校ルール」を児童・生徒が自発的に設定し、自ら取り組んでいくことができるような方法を工夫していく必要がある。

問 11-2 「知っている」と答えた人に聞きます。「SNS学校ルール」を守っていますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
守っている	52%	29%	44%	守っている	62%	52%	44%	29%	29%	30%
だいたい守っている	43%	56%	48%	だいたい守っている	35%	43%	49%	59%	57%	53%
あまり守っていない	4%	10%	6%	あまり守っていない	3%	4%	7%	9%	11%	10%
まったく守っていない	1%	4%	2%	まったく守っていない	1%	1%	1%	3%	4%	6%

【分析】

「知っている」と答えた児童・生徒の中で、肯定的な回答【「守っている」および「だいたい守っている」の回答の合計】が全小学校で95%、全中学校で85%であった。

「SNS学校ルール」を「知っている」と回答した児童・生徒は概ね守っていると捉えられる。

しかし、本問で否定的な回答【「あまり守っていない」および「まったく守っていない」の回答の合計】をした児童・生徒は、「SNS学校ルール」を「知っている」にも関わらず「守っていない」。児童・生徒が自発的に決めたルールを自分事として捉えられるよう、教員と児童・生徒の間で話し合いながら取組を進めていく必要がある。

問 12 スマートフォン、タブレット、携帯電話の使い方について、家族で話し合ったり、家族から言いつけられたりした約束や決まりごと（利用する時間や場所など）は、ありますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
ある	79%	73%	76%	ある	77%	78%	81%	74%	72%	72%
ない	21%	27%	24%	ない	23%	22%	19%	26%	28%	28%

【分析】

家庭の中でルールがあると回答した児童・生徒の割合は、全小学校は79%（令和2年度：73%）全中学校は73%（令和2年度：64%）であり、小学校で6ポイント、中学校で9ポイント増加した。

要因として、昨年度一人1台端末（iPad）が貸与されたことをきっかけとして、iPad以外の通信機器についてもiPadと合わせて家庭におけるルールづくりを行った家庭が増えたのではないかと考えられる。

SNS等のトラブルは主に家庭で使用している際に起こることが多いことから、保護者に対して「SNS学校ルール」を周知するとともに、「SNS家庭ルール」についての家庭での取組を啓発し、学校と家庭が協力して情報モラル教育を推進する必要がある。

問 13～問 16：学校から貸し出されているタブレット（iPad）の利用状況について

問 13 学校から貸し出されているタブレット（iPad）は、1日にどのくらい使っていますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
30分未満	51%	59%	54%	30分未満	54%	47%	50%	56%	60%	60%
30分以上1時間未満	30%	26%	28%	30分以上1時間未満	30%	32%	28%	28%	26%	23%
1時間以上2時間未満	13%	10%	12%	1時間以上2時間未満	11%	15%	14%	11%	9%	10%
2時間以上3時間未満	4%	3%	4%	2時間以上3時間未満	3%	4%	5%	3%	3%	3%
3時間以上4時間未満	1%	1%	1%	3時間以上4時間未満	1%	1%	1%	1%	1%	2%
4時間以上5時間未満	0%	0%	0%	4時間以上5時間未満	0%	1%	0%	0%	0%	1%
5時間以上	1%	1%	1%	5時間以上	0%	1%	1%	1%	0%	1%

【分析】

以下、問 13 から問 16 は今年度新規の質問である。

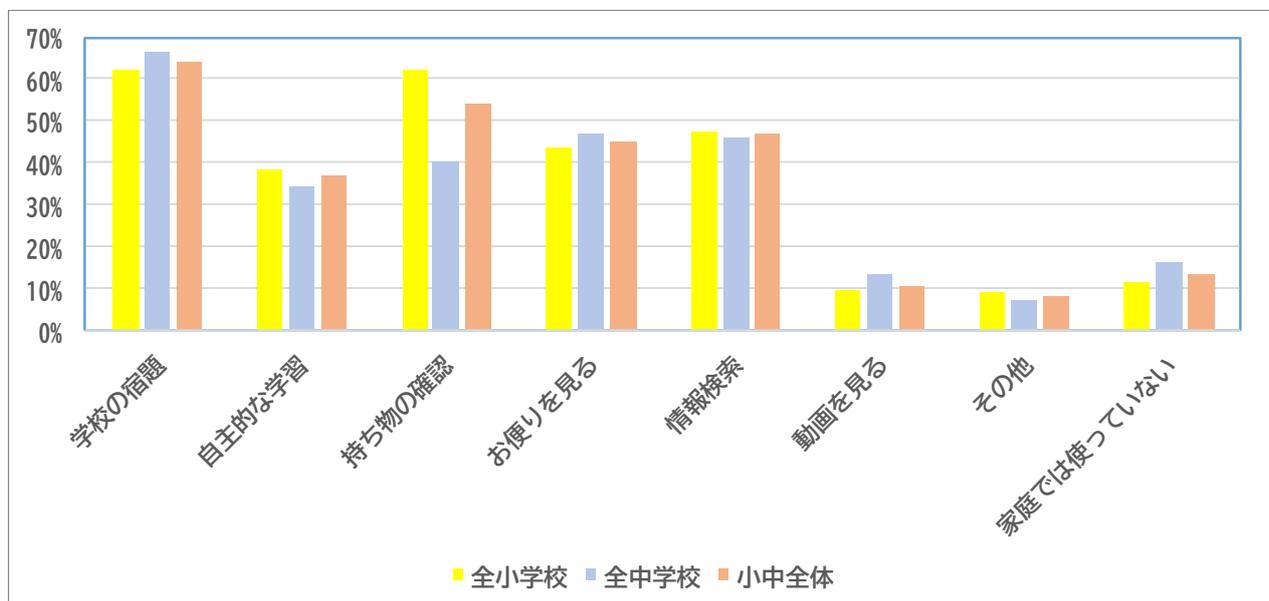
一人1台端末（iPad）の使用時間については、全小学校、全中学校とも「30分未満」が一番多く、次いで「30分以上1時間未満」、「1時間以上2時間未満」であった。

使用時間が2時間未満の児童・生徒の割合の合計が95%であることから、家庭ではiPadの使用がないまたは使用してはいるものの、家庭では自分が自由に使える通信機器を使う時間の方が長く、iPadを2時間以上使用している児童・生徒の割合はごく僅かである。

iPadについては、学校や家庭問わず、文房具としていつでも学習に活用していくことが求められていることから、どの場面で、どのように活用するのがよいのかを児童・生徒に指導していく必要がある。

問 14 学校から貸し出されているタブレット(iPad)は、家庭でどのようなことに使っていますか。
(複数回答可)

	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
学校の宿題	62%	67%	64%	学校の宿題	58%	66%	63%	71%	67%	60%
自主的な学習	38%	34%	37%	自主的な学習	36%	42%	36%	36%	33%	34%
持ち物の確認	62%	40%	54%	持ち物の確認	56%	65%	66%	38%	41%	41%
お便りを見る	44%	47%	45%	お便りを見る	40%	45%	47%	50%	51%	42%
情報検索	47%	46%	47%	情報検索	40%	53%	49%	43%	50%	46%
動画を見る	9%	14%	11%	動画を見る	9%	9%	11%	11%	11%	19%
その他	9%	7%	8%	その他	11%	9%	7%	7%	7%	8%
家庭では使っていない	11%	16%	13%	家庭では使っていない	12%	10%	13%	16%	17%	17%



【分析】

一人1台端末(iPad)の利用については、全小学校では、「学校の宿題」と「持ち物の確認」が62%で一番高く、次いで「情報検索」が47%だった。全中学校では、「学校の宿題」が67%と一番高く、次いで「お便りを見る」が47%、「情報検索」が46%であった。

小学校では中学校よりも「持ち物の確認」について利用している割合がおよそ20%ほど多かったが、それ以外では小・中学校で家庭での一人1台端末(iPad)の利用について大きな違いは見られなかった。

一方で、「動画を見る」という利用の割合が全小学校で9%、全中学校で14%となっている。学習に関連する動画を見ていることと想定されるが、問4で小・中学校ともに家庭での通信機器の利用が「動画を見る」が一番だったことを踏まえると、学習用・使用を合わせて、児童・生徒が普段の生活の中で動画を見る時間は長くなっている傾向にあると考えられる。

今後は、長時間の動画視聴による健康面への影響や動画の視聴が学習方法としてどの程度有効であるのかを検証していく必要がある。

問 15 学校から貸し出されているタブレット(iPad)で、他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしたことはありますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
ある	0.4%	0.5%	0.4%	ある	0.4%	0.3%	0.4%	0.4%	0.3%	0.9%
ない	99.6%	99.5%	99.6%	ない	99.6%	99.7%	99.6%	99.6%	99.7%	99.1%

【分析】

一人1台端末(iPad)を利用して、他人の悪口を書き込んだり、相手に送ったりしたことがある児童・生徒の割合は小中全体で0.4%であった。

現在の一人1台端末(iPad)の設定上、他人へメッセージ等を書き込むには、Google クラウド内のストリーム機能内または、授業中に意見共有を行う授業補助アプリ内などが想定される。

児童・生徒には、個人に対してはもちろん、学級等の集団の中で多くの人が見られる場所に悪口を書き込むことは、いじめをはじめとした大きなトラブルに発展していく可能性があることを理解させるとともに、書き込んだり送ったりする前に、必ず相手の気持ちを考えて読み直すなどの指導を徹底する必要がある。

また、Google クラウドや授業補助アプリなどは、教員が管理しており、日々の連絡や意見交流等で頻繁に使われる機会が多いことから、教員は常に児童・生徒の書き込みを把握するとともに、書き込む内容についてのルールを定めるなど児童・生徒と共通理解を図り、内容について不適切なものがあればすぐに指導を行っていくよう努める必要がある。

問 16 学校から貸し出されているタブレット(iPad)で、他人から悪口を書き込まれたり、相手から送られたりしたことはありますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
ある	0.5%	0.5%	0.5%	ある	0.5%	0.8%	0.3%	0.4%	0.3%	0.8%
ない	99.5%	99.5%	99.5%	ない	99.5%	99.2%	99.7%	99.6%	99.7%	99.2%

【分析】

一人1台端末(iPad)を利用して、他人の悪口を書き込まれたり、相手から送られたりしたことがある児童・生徒の割合は小中全体で0.5%であった。

問 15 同様、現在の一人1台端末(iPad)の設定上、他人へメッセージ等を書き込むには、Google クラウド内のストリーム機能内または、授業中に意見共有を行う授業補助アプリ内などが想定される。

教員は常に児童・生徒の書き込みを把握し、不適切な内容が書き込まれた場合には、すぐに削除するなど、いち早く対応していかなければならない。また、自分に対するものだけでなく、他人に対するものであっても、不適切な書き込みを見かけた場合には、すぐに教員に申し出るよう日頃から児童・生徒に伝えていくことが必要である。